

# 令和4年度事業報告書

社会福祉法人誠友会

# は じ め に

令和 4 年度の本会重要事業に「海外拠点整備」を掲げてある。千葉県担当課の指導も得ながらスリランカの NGO 団体サルボダヤとの連携協議を進めてきた。また別件でタイ国訪問の機会があり、コロomboのバンダラナイケ国際空港とバンコクのスワンナプーム国際空港を訪れて驚いた。日本入国の水際対策と打って変わって入国時の検疫や審査が簡素化されていたのである。タイではパスポートと航空機搭乗券のみで検疫はなし。スリランカでは入国カードこそ必要とされたがほぼスルー状態。日本の対応も簡素化されるだろうという確信は、コロナウイルス感染症第 5 類への変更決定で現実のものとなった。このパンデミック騒動をもたらしたものは何だったのか。世界各国で真相究明の動きが出てきたが、ロシア・ウクライナ戦争を含む世界各地で引き起こされていく紛争や食糧危機を煽るメディア報道が次々と私たちの不安を助長させている。

これらの動きは本会の事業にも確実に影響を及ぼし、特に生産労働人口減少、公共料金の値上げや物価高、高齢者の引きこもり、児童虐待件数の激増など緊張感を持った事業運営を余儀なくされた一年間であった。行政諸施策上では処遇改善手当やコロナ関連助成金などで一時的な救済措置も取られたが、国民保護を目指した根本的な対策にはなっていない。テレワークや介護系総合事業のガイドラインなどが示されるものの、例えば全国の児童虐待件数 20 万件超という目の前にある現実が私たちに直面しているのである。

幸い本会における基本事業は事業計画に沿った結果を得ることができた。職員確保対策としての海外拠点整備は、サルボダヤとの覚書締結により既に日本語・介護スクールが開校し、はくすい農園を主体とする地域共生社会の創出は、「豊かさを失わない実践」というフレーズにより、収穫祭や災害対策訓練、地域運動会の開催などを実行できた。リッチタイムホテル購入による多目的入居施設運営事業は断念したが、進めるべきは進め、撤退すべきは撤退する。改正社会福祉法下での法人運営は、理事会及び理事長以下執行部の決断にかかっていることをさらに自覚していかなければならない。

収支決算に関しては、コロナ禍の影響下でもほぼ計画通りに執行できた。外国人雇用を主前提とした職員寮整備の支出が大きかったものの、事業活動収支計算上は黒字計上である。ただし、高齢者の通所系事業について言えば厳しい結果であったことは事実である。通所より入居を選ぶ高齢者の傾向はこれからも続くことが予想される。収支バランスの分析を経た事業の見直しがこれからの課題のひとつである。

昨年 7 月に、元総理大臣であった安倍晋三氏が暗殺された。全世界に漂う不穏な動きは私たちの事業にも大きな影響を与えている。それらに右往左往することなく私たちは現場目線でしっかりとこれからの福祉事業を見極めていきたいと思う。

令和 5 年 5 月

社会福祉法人誠友会  
理事長 竹内 淳

# 〔1〕 概要

## 1. 法人及び施設の概要

### (1) 法人

- ① 法人名 社会福祉法人誠友会
- ② 所在地 千葉県佐倉市岩名1011番地
- ③ 代表者 理事長 竹内 淳
- ④ 設立年月日 昭和63年11月4日
- ⑤ 目的 多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する。

### ⑥ 役員 8名 令和5年3月31日現在

役職名	氏名	住所	公職等
理事長	竹内 淳	〒285-0011 佐倉市山崎 368	誠友会 統轄施設長
常務理事	竹内久美子	〒285-0011 佐倉市山崎 368	はくすい保育園 施設長
常務理事	安宅 香織	〒264-0025 千葉市若葉区都賀 3-20-1-304	特養佐倉白翠園施設長
理事	木村 正久	〒285-0015 佐倉市並木町 243	医師
理事	鈴木敬一郎	〒286-0047 成田市江井須 220-81	特養栄白翠園施設長
理事	寺田 純子	〒285-0857 佐倉市宮ノ台 5-12-8	佐倉市社会福祉協議会理事
理事	岩淵 康雄	〒166-0011 東京都杉並区梅里 2-15-9	佐倉中央病院 病院長
監事	佐藤 満	〒284-0008 四街道市鹿放ヶ丘 305-2	元四街道市福祉サービス部長
監事	井戸川員三	〒284-0001 四街道市大日 470-36	公認会計士

### ⑦ 評議員 7～9名

役職名	氏名	住所	公職等
評議員	大久保靖夫	〒270-1516 栄町安食 3660	NPO法人 栄町観光協会理事長
評議員	中野いく子	〒285-0025 佐倉市鎚木町 235	(一財)社会福祉研究所 理事
評議員	櫻井 肇	〒285-0011 佐倉市山崎 500-1	前佐倉市内郷地区社会福祉協議会会長
評議員	峰村 愛子	〒285-0034 佐倉市千成 1-20-4	ボランティア代表
評議員	田代 道郎	〒112-0002 東京都文京区小石川 3-16-8	元入所者家族代表
評議員	萩原 勝世	〒285-0815 佐倉市城 203-2	松ヶ丘防犯グループ会長
評議員	穴原 昌弘	〒270-1515 栄町安食台 2-5-17	栄町民生・児童委員協議会顧問
評議員	西原 弘明	〒285-0850 佐倉市西ノカガ丘 1-24-1	社会福祉法人愛光 理事長
評議員	堀井弥奈子	〒135-0063 東京都江東区有明 1-2-11-504	㈱佐倉自動車学校 代表取締役社長

### ⑧ 評議員選任解任委員 3名

役職名	氏名	住所	選出分野
監事	佐藤 満	〒284-0008 四街道市鹿放ヶ丘 305-2	誠友会 監事
事務局	小笠原 健	〒284-0001 四街道市大日 2208-1	特養佐倉白翠園 生活相談室室長
外部委員	野口 恭義	〒285-0861 佐倉市臼井田 1029	元誠友会理事・評議員

## 2 会議開催状況

(1) 理事会 全3回 評議員会 全3回

主な議題

定款変更、事業報告、事業計画、予算、決算、各種規程変更、つなぎ融資等

(2) 苦情処理委員会開催状況 全2回

(3) 合同経営会議 全11回

## 2 佐倉白翠園

コロナ禍も3年目となり、BCP（業務継続）対策の視点を取り入れ対応した。職員研修や防災訓練も参集やリモート等状況に合わせ、工夫を施し実施できた。以前のような大きい行事ではなく、回想法を取り入れ、昔ながらの生活に密着した装飾を施したり、屋外を有効に活用した行事を実施した。機能レベルは前年度に比べ低下傾向、BPSD（周辺症状）は前年度に比べ減少している。コロナ禍での日課等変更による影響も踏まえ、今後の検討課題となっている。

### [1] 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

1 指定施設サービス内容 定員64名

### 2 会議等

所属長会議（全27回） 給食委員会（全11回）

職員全体会議（全2回） 衛生委員会（全10回）

経営会議（全11回） 感染対策委員会（全18回）※臨時8回

看護会議（全11回） 行事委員会（新型コロナ感染症対策のため、臨時調整対応）

介護会議（全体会議2回） 入所（入居）検討委員会（全12回）

介護リーダー会議（全11回）

※ 事故防止委員会、安全対策委員会、褥瘡対策委員会、虐待防止委員会同日開催  
個別処遇会議（全35回）

### 3 防災

(1) 防災訓練実施日及び内容 全10回

### 4 ボランティア活動

(1) ボランティア活動年間延べ40人（前年度 28人）

(2) ボランティア懇談会 全2回 ※1回は個別懇談

### 5 地域交流事業 全9回 ※非対面交流含む

6 実習生受け入れ状況 年間実人数 10名 延べ人数 78人 延べ日数 53日  
福祉・教育系等

### 7 各部門

【生活相談室】 正職1名

新型コロナウイルス感染症発生に伴う入院者の増加及び退所者が19名と前年度より上回った。クラスター発生に伴う新規受け入れの遅延や受け入れに係る準備不足等により空床期間が長引き全体的な稼働率が低下した。

(1) 年間平均稼働率 92.4%（前年度 94.1%）

(2) 平均介護度 4.13（前年度 4.1）

(3) 平均年齢 84.7歳（前年度 85.2歳）

【看護室】 加算配置 1 名 正職 2 名 嘱託・パート：7 名（ショート・デイ・ユニット兼務）

新型コロナウイルス感染が複数回発生、クラスター発生は 2 回。関係機関と連携し、酸素療法等を取り入れ 1 ヶ月以上に及び施設内療養を実施した。また、年間の入院者や死亡者も前年度を上回り、医療的ニーズが高い状況が続いている。

- (1) 病院受診状況 年間延べ 588 名 (前年度年間延べ 640 名)
- (2) 入院状況 年間 52 名 (前年度年間 40 名)
- (3) 死亡者数 年間 16 名 (園内看取り 9 名) (前年度 13 名)

【栄養室】 配置正職 1 名（ショート・デイ・保育兼務）

前年度に続き食レベルの低下がみられている。入所者全体の 27%は食事量の通常提供が難しく、栄養補助食品の使用率は 59%へ増加した。各部と連携し、昔ながらの生活に密着した季節の行事に合わせた食事を提供した。

【介護部】 正職 13 名 嘱託・パート 16 名（ショート担当兼務 6 名）

新型コロナウイルス感染が複数回発生した。コロナ禍で不自由な生活を余儀なくさせられたが、回想法を取り入れ、昔ながらの生活に密着した季節の行事や感染対策を講じ地域とのつながりを継続してきた結果、行事の参加者数は前年度を上回った。また、技能実習生 2 期生が配属されたことや社会保険拡大に伴う非常勤雇用職員の勤務時間増により介護人員不足の解消へ繋がった。

- (1) 年間行事参加人数（SS 含） 1057 名（前年度 674 名）
- (2) 年間誕生会参加人数（SS 含） 55 名（前年度 59 名）
- (3) 年間クラブ・レク実施状況（SS 含） 22 回（前年度 72 回）
- (4) 精神スケール調査

令和 5 年 3 月 1 日～3 月 30 日 改訂 長谷川式スケール調査

	カットオフポイント	令和 3 年度	令和 4 年度
非認知症	21 点以上	3	5
認知症	20 点以下	39	31
調査不可能	—	16	21
未調査	—	2	4
合計	—	60	61

[2] 特別養護老人ホーム（ユニット型介護老人福祉施設）

1 指定施設サービス内容 定員 50 名（1 ユニット 10 名×5 ユニット）

2 会議等 ユニットリーダー会議 全 10 回

※ 事故防止委員会、褥瘡対策委員会、行事委員会同日開催  
ユニット会議（全 8 回） 個別処遇会議（全 44 回）

3 ボランティア協力状況 年間延べ 3 名（前年度 0 名）

4 各部門

【生活相談室】 正職 1 名

新型コロナウイルス感染症のクラスター発生により、新規入居者の受け入れの遅延等が発生したものの、前年度に比べて退居者数は半減し加算も安定的に算定できたことで、稼働率、稼働額共に上昇した。

- (1) 年間平均稼働率 94.5%（前年度 93.2%）
- (2) 平均介護度 4.08（前年度 4.10）
- (3) 平均年齢 89.8 歳（前年度 89.8 歳）

【看護室】 加算配置 1 名 正職 1 名 嘱託・パート：7 名（ショート・デイ・ユニット兼務）  
 新型コロナウイルス感染が複数回発生し、1 回は 10 名の利用者と複数名の職員が感染し  
 クラスタとなった。看護職員も夜勤体制に取り組み、施設内療養を実施した。

ユニット型は、年間の入院者や死亡者は前年度より減少した。

- (1) 病院受診状況 年間延べ 505 名 (前年度年間延べ 558 名)  
 (2) 入院状況 年間 33 名 (前年度年間 37 名)  
 (3) 死亡者数 年間 8 名 (園内看取り 6 名) (前年度 17 名)

【栄養室】 正職兼務 1 名

入居者の食レベル低下がみられ、全粥・ペースト粥のニーズが増加した。新型コロナウイルスの陽性者発生により、行事等への参加が困難であったため、出前食の回数や食レベルに合ったレパートリーを増やし、食で楽しめる企画に努めた。

【介護部】 正職 14 名、パート 15 名（うち育休 1 名）

新型コロナウイルス感染症のクラスターが 3 回発生し職員体制が危機的な状況に陥ることもあったが、感染拡大に努め概ね最低限の期間で終息できた。隔離による入居者の ADL 低下も、隔離解除後のケアで影響を最小限に抑えることができた。

- (1) 年間行事参加 30 回（前年度 41 回）  
 (2) 年間誕生会回数 27 回（前年度 29 回）  
 (3) 精神スケール調査

令和 5 年 3 月 11 日～3 月 31 日 改訂 長谷川式スケール調査

	カットオフポイント	令和 3 年度	令和 4 年度
非認知症	21 点以上	3	4
認知症	20 点以下	31	31
調査不可能	—	12	14
未調査	—	0	1
合計	—	46	50

[3] ショートステイサービス（短期入所生活介護事業）

- 1 指定居宅サービスの内容 定員 10 名  
 2 会議等 ショートステイ会議 全 4 回  
 3 各部門

【生活相談室】 正職 1 名

新規利用者は 38 件、利用中止者は 25 件あった。今年度も新型コロナウイルス感染症のクラスター発生はあったが、BCP（業務継続）対策を行い、稼働率は昨年度より上昇した。

年間平均稼働率 87.1% 平均利用 8.7 名  
 (前年度 77.7% 7.8 名)

【看護室】 加算配置 1 名 正職 1 名、嘱託・パート：7 名（ショート・デイ・ユニット兼務）  
 医療行為が必要な利用者の受け入れを行い、各々安定した定期利用に繋がっている。

- (1) 年間医療行為利用者 述べ 552 名（前年度 367 名）

【栄養室】 正職 1 名（従来型・デイ・保育兼務）

昨年と比較し、やや食レベルの低下がみられた。利用者がおやつを選択できる「セレクトおやつ」を継続して実施。

【介護部】

小規模の行事や準個室の共有スペースを活用した少人数でのお茶会など感染予防に配慮しながらも余暇活動を継続した。

[4] デイサービスセンター（通所介護事業）

1 指定居宅サービス内容

通常規模型通所介護（定員）月曜～土曜：25名

2 会議等 デイ会議 全12回

3 ボランティア協力状況 年間延べ111名（前年度31名）

4 実習生受け入れ状況 年間実人数 2名 延べ日数 10日 医療系、介護系

5 各部門

【生活相談室】 専任正職1名 兼務2名

佐倉市内デイサービス事業所で新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生し、連携対応に苦慮した。コロナ禍でデイサービス利用控えの傾向及び営業への躊躇等による新規獲得が増やせなかったため、稼働率は大幅に減少した。

(1) 稼働率 通常・予防型 年間平均稼働率 61.8% 平均利用 15.4名/日  
(前年度 67.2% 16.7名/日)

(2) 平均年齢 86.3歳（前年度85.4歳）

(3) 新規利用者数 通常型 24名（前年度27名）

(4) 中止者数 通常型 20名（前年度22名）

【看護室】 嘱託・パート：4名（従来型・ショート・デイ・ユニット兼務）

(1) 年間運動器機能 年間 0名（前年度 0名）

(2) 医療行為件数 年間 延べ人数 54名（バルン留置者、在宅酸素）

【栄養室】 正職1名（従来型・ショート兼務）

行事食実施状況 季節の行事ごとに実施 運動会、クリスマスメニュー等

【介護部】 正職2名（内1名兼務） 嘱託、パート10名（内1名兼務）

感染対策を講じながら新しい行事企画のミニ運動会や、流しそうめんを再開することができ利用追加に繋げることができた。

園内外活動状況（園外）ミニ運動会、文化祭、収穫祭、すくも

（園内）行事、レクリエーション、クラブ活動及び誕生会（毎月）

6 通所型サービス（佐倉市委託事業） 全28回 農園教室  
参加者延べ148名 ボランティア40名

[5] ケアサービスセンター

特定事業所加算Ⅱ

入退院及び区分変更の支援が多くあり、暫定プランやプラン追加変更等の対応が多かった。また、支援から介護になる利用者が複数いたため、要介護利用者数合計は前年度より増加した。

1 利用規模 156名 ※支援1.2事業対象は2名で1名計算

2 会議等 ケアマネ会議 全51回

3 職員数 正職4名

4 利用状況

新規プラン受付 年間42件（前年度79件）

年間利用件数 支援等 360件（前年度431件） 平均30件/月

要介護 1501件（前年度1455件） 平均125件/月

5 介護支援専門員実務研修実習生受入 1名

6 介護者のつどい（佐倉市委託事業） 全8回

### 3

## 栄白翠園

コロナ禍、上半期は概ね安定していたが、下半期は地域内及び当園においてクラスターが発生し厳しい場面もあった。看取りの充実や各事業が目標に掲げていた新規利用者獲得が順調に進んだことにより大幅な稼働率低下にはならなかった。

また、新たな技能実習生や特定技能の受け入れ、育成もスムーズに行えた。

#### [1] 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

1 指定施設サービス内容 定員50名

#### 2 会議等

所属長会議（全51回）	給食委員会（全12回）
職員全体会議（全2回）	衛生委員会（全12回） 安全対策委員会（全12回）
経営会議（全12回）	感染対策委員会（全12回）
看護会議（全12回）	行事委員会（全11回）
介護部職員会議（全11回）	施設・在宅合同リーダー会議（全12回）
個別処遇会議（全18回）	入所検討委員会（全12回）
褥瘡対策委員会（全12回）	身体拘束適正化検討委員会（全4回）

#### 3 防災

(1) 防災訓練実施日及び内容 全12回

4 ボランティア活動 年間延べ0人（前年度 0人）

5 地域交流事業 0回

6 実習生受け入れ状況 年間実人数 25名 延べ人数 77人 延べ日数 21日  
福祉・医療系 教育系等

#### 7 各部門

【生活相談室】 正職1名

12月末に園内で新型コロナウイルス感染症クラスターが発生した。関係機関等と連携を図ることで空床期間の短縮に努め、新規入所者を速やかに受け入れ、年間平均稼働率は平年並みを維持することができた。またコロナ禍中、臨機応変な対応を心掛け、行事の実施や家族、入所者との繋がりにも配慮した。

- (1) 年間平均稼働率 95.3%（前年度 95.4%）
- (2) 平均介護度 4.00（前年度 3.90）
- (3) 平均年齢 85.0歳（前年度 86.9歳）

【看護室】 正職：2名（1名デイ兼務） 派遣：2名（2名デイ兼務）

感染症対策は順調に行えていたが、年末にクラスターが発生した。関係機関との連携により、多数の入所者を園で療養することが出来た。また、昨年以上に家族から看取りの希望があったため嘱託医、協力病院と連携をはかり行うことが出来た。

- (1) 病院受診状況 年間延べ 789名（前年度年間延べ 555名）
- (2) 入院状況 年間 30名（前年度年間 22名）
- (3) 死亡者数 年間 20名（前年度 14名）

【栄養室】 正職1名（ショート・デイ兼務）

食事形態の面では、昨年と比較し、刻み・ミキサー食、水分とろみ付きの割合が増加した。入所者の重度化・コロナ禍であっても楽しみを持てるような食事ができるよう創意工夫した。年末に発生したクラスター時には、ディスプレイ食器を使用しカリキュラムを一部変更したが、栄養補助食品の提供・おやつの内容を変更することで栄養量・水分量を確保した。

【介護部】正職 12 名（ショート担当 2 名） 嘱託・パート 8 名

コロナ禍 3 年目という事もあり、行事に関しては、工夫をしながら昨年よりも行う事が出来た。また、処遇に関しては入所者の重度化による介助増、医療行為が必要な方が増えた。年末にクラスターが発生したが看護室はじめ関係部署との協働により、園での療養を行った。

- (1) 年間行事参加人数（ショート含） 506 名（前年度 446 名）
- (2) 年間誕生会参加人数 53 名（前年度 46 名）
- (3) 年間クラブ・レク実施状況 25 回（前年度 27 回）
- (4) 精神スケール調査

令和 5 年 3 月 1 日～3 月 15 日 改訂 長谷川式スケール調査

	カットオフポイント	令和 3 年度	令和 4 年度
非認知症	21 点以上	1	2
認知症	20 点以下	36	31
調査不可能	—	10	14
未調査	—	3	2
合計	—	50	49

[2] ショートステイサービス（短期入所生活介護事業）

1 指定居宅サービスの内容 定員 10 名

2 会議等 ショートステイ会議 全 12 回

3 各部門

【生活相談室】 正職 1 名（介護支援専門員兼務）

園内クラスター発生までは順調だったが、発生後は利用を控える方がおり稼働率低下となった。年間を通しては、処遇の充実や行事等毎月の催し物を楽しんでいただくことにより新規利用者獲得にも繋がった。

年間平均稼働率 81.0% 平均利用 8.1 名  
(前年度 82.6% 8.2 名)

【看護室】

受け入れの際の健康状態には十分留意した。生活動線等のエリア分けを指導する等、感染症対策を行った。また、クラスター終息後もゾーニングを行うなどのリスクマネージメントに努めた。

(1) 年間医療行為実人数 4 名 延べ 317 回（前年度 288 回）

【栄養室】 正職 1 名（特養・デイ兼務）

「Live キッチン企画」を引き続き実施し、はくすい農園の苺も使用して実施した。

【介護部】 従来型に準ずる

特養本体とパントリーの住み分けをはかることにより感染防止対策を行った。クラスター発生後は、継続したゾーニングにより感染リスクの軽減に努めた。

[3] デイサービスセンター（通所介護事業）

1 指定居宅サービス内容

通常規模型通所介護（定員） 月曜～土曜：25 名

2 会議等 デイミーティング 全 12 回

3 ボランティア協力状況 年間延べ 0 名（前年度 0 名）

4 各部門

【生活相談室】 正職2名（1名兼務）

コロナ禍中、1年を通して安定した営業が出来た。しかし、利用者の重度化や本体施設、地域内におけるクラスター発生等により利用を控える方が増え稼働率が低下した。

新規利用者は前年を上回り、町委託のリハビリ型デイも希望者が多く急遽回数を増やすことになった。

稼働率	通常型・総合型	年間平均稼働率	63.7%	平均利用	16名/日
		(前年度)	70.5%		17名/日)

- |     |        |         |               |
|-----|--------|---------|---------------|
| (1) | 平均年齢   | 85.7歳   | (前年度 86.7歳)   |
| (2) | 新規利用者数 | 通常型・総合型 | 20名 (前年度 7名)  |
| (3) | 中止者数   | 通常型・総合型 | 25名 (前年度 16名) |

【看護室】 正職1名（特養と兼務） 派遣：2名

受け入れの際の健康状態には十分留意した。特養との業務動線等を分けることにより感染のリスクを軽減した。

- (1) 医療行為実人数 4名 延べ バルーン留置 130回

【栄養室】 正職1名（特養・ショート兼務）

短期集中リハビリ型デイサービスの参加者が増加し、栄養指導等も工夫を凝らした。毎月実施する誕生会にて、手作りケーキを提供した。

【介護部】 正職1名（兼務） パート：8名

レクリエーション、手工芸の内容を工夫したことにより希望者が増えた。また、コロナ禍でADLが低下した利用者からの要望に沿った体操や機能訓練プログラムを行った。

[4] 在宅介護支援センター（委託事業）

相談件数は前年度より増加している。例年に比べると介護保険やタクシー券などの申請代行、また住宅改修の理由書作成などの手続きが多かった。実態把握調査に関しては、コロナ禍でスムーズにいかないことがあった。

- 1 利用規模 栄町全域
- 2 職員数 居宅介護支援事業所と兼務
- 3 利用状況 対応件数 40件（前年度 30件）

[5] ケアサービスセンター

新規プランが前年度より増加している。コロナ禍という事もあり、家族が医療機関から退院させ自宅での生活を希望されるケースも多く医療系サービスを調整することが多かった。また、同様に看取りのケースも増加し、短期間で終了者も増えた。

- 1 利用規模 介護給付 68名 予防給付 22名
- 2 会議等 ケアサービスセンター会議 全 12回
- 3 職員数 正職兼務 3名（うち1名は短期入所生活介護事業相談員を兼務）
- 4 利用状況

新規プラン受付	年間 43件	(うち予防給付 4件)	(前年度 30件 (うち予防給 3件))
年間利用件数	要支援	183件	平均 15.3件/月 (前年度 201件)
	要介護	801件	平均 66.8件/月 (前年度 722件)

## 4

## 松ヶ丘白翠園

サービス付き高齢者向け住宅・デイサービスともに前年度に比べ実利用者数が減少。適正職員数配置の検討や業務の見直しに迫られた1年であった。サービス付き高齢者向け住宅で1名新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生し、同時期にデイサービス利用者でも陽性者が発生、デイサービス全館休業に至った期間があった。しかし、法人内他事業所・内部・行政と連携することによって感染拡大を最小限に抑えることができた。

[1] サービス付き高齢者向け住宅 兼務正職1名 兼務嘱託1名 パート3名 業務委託1名  
今年度は、入居者数が25名になる時期があったが、その後、家庭復帰・施設入所・入院等により退居者が続出した（今年度新規入居者4名。退居者8名）。入居者1名が新型コロナウイルスに罹患することがあったが、行政および内部と連携して感染症対策を講じた結果、追加の発症者を出さずに終息できた。

1 サービス内容 定員26名（26戸）

2 会議等

職員全体会議 全2回 処遇会議 全3回

3 稼働率 83.8%（前年度 87.3%）

4 平均年齢 84.1歳（前年度 80.6歳） 平均介護度 1.1（前年度 1.1）

[2] デイサービスセンター

1 指定居宅サービス内容 大規模型通所介護Ⅰ

（定員）月曜～土曜：40名

（内、スポーツ館（本体事業所）20名／カルチャー館（サテライト事業所）20名）

2 会議等

経営会議 全9回

スポーツ館介護会議 全10回

カルチャー館介護会議 全10回

衛生委員会 全12回

感染対策委員会 全12回

3 防災

(1) 防災訓練実施日及び内容 全11回

4 ボランティア協力状況 年間延べ131名（前年度25名）

5 介護予防拠点事業 ※新型コロナウイルスの関係で未実施。

6 各部門

【生活相談室】 正職1名 兼務正職2名

利用者数減少に伴い、定員を両館ともに25名から20名ずつ（合計50名から40名）に変更したが、その後も利用者数の減少が続き、稼働率は昨年度並みに終わった。新型コロナウイルスの影響で中止していた行事を一部再開したことで利用者の追加利用に繋がった。

(1) 稼働率 通常・総合 年間平均稼働率 68.2% 平均利用 27名/日

（前年度 62.4% 31名/日）

(2) 平均年齢 84.3歳（前年度 84.8歳）

(3) 新規利用者数 通常・総合 20名（前年度9名）

(4) 中止者数 通常・総合 25名（前年度24名）

#### 【看護室】 パート3名

スポーツ館・カルチャー館を総合的に対応した上で、サ高住入居者への健康相談、ワクチン接種等も実施。利用者やサ高住入居者で新型コロナウイルス感染者の発生はあったが、法人内事業所や各部署等との連携による感染症対策を講じたことで、感染拡大を防ぐことができた。

(1) 年間運動器機能 年間延べ219名 (前年度 263名)

#### 【栄養室】 正職2名 パート6名

季節に合わせた行事食を前年度よりも回数を増やして実施した。行事食では食材や装飾品など、利用者が目で見て楽しめる提供方法にも力を入れた。

(1) 季節に合わせた行事食を年間25回実施。

#### 【介護部】 正職2名 兼務正職1名 兼務嘱託1名 パート6名

コロナ禍で休止していた行事企画を一部再開した。業務分掌の見直し等を行い、両館の特徴に合わせた介護の維持に努めた。

園内外活動状況 (園外) パン移動販売車による屋外リハビリ実施  
(園内) 季節行事及びクラブ活動並びに誕生会毎月実施

## 5 佐倉地域包括支援センター

地域包括ケアシステム構築に向け、地域ケア会議（在宅医療介護連携推進会議・予防のための地域ケア会議・個別地域ケア会議・圏域推進会議等）を通じ、地域課題の把握、自助互助の関係づくり、医療・介護連携の推進、生活支援体制整備・認知症総合支援事業を推進している。

新規総合相談件数・継続支援は、前年度に比べて1割程度増加。指定介護予防支援新規利用者数・新規利用者数も前年に比べて1割程度増加している。

1 利用規模 佐倉市佐倉圏域（高齢化率 37.30% 高齢者数 10,311人）

2 職員数 正職7名 パート2名

### 3 利用状況

指定介護予防支援月別利用者数 年間延べ 3,857名 (前年度 3,843名)

新規利用者数 年間延べ 114名 (前年度 97名)

総合相談件数 年間延べ 895件 (前年度 825件)

継続支援件数 年間延べ 3,395件 (前年度 3,263件)

## 6 佐倉はくすい保育園

コロナ禍の影響等もあり、登録児童数54名となったが、3月には卒園生11名を小学校へ送り出すことができた。事業所内保育は高齢者施設、保育園の職員不足解消に寄与し、延べ754名が利用した。病後児保育においても、コロナ禍の影響があり利用人数は少ないが常に受け入れできる体制を取っている。平成27年度7月より実施した一時預かり保育事業のニーズは0,1,2歳に多いが、定員枠内の利用に限られるため、利用者数は少ないが、年間延べ128名が利用。

令和4年度は、当園の特徴である高齢者施設との共生事業として、窓越し交流や距離を取りながら戸外活動交流に取り組んだ。はくすい農園での苺狩り体験では沢山の笑顔が見られ、畑の野菜の収穫や調理する体験により、食への意欲と関心に繋ぐことができた。

### 1 認可保育所

(1) 利用規模 認可保育事業 (定員)60名 病後児保育事業 (定員)3名

(2) 保育職員会議 全12回

### (3) 利用状況

認可保育事業 登録児童 54名 延べ年間利用人数 10,598名  
(5/29~6/1 コロナ休園・6/2 クラス閉鎖)  
一時預かり保育事業 登録児童 11名 延べ年間利用人数 128名  
病後児保育 事前面接件数 17件(昨年30件)  
年間利用人数 2名(昨年11名) 延べ利用日数2日(昨年11日)

## 2 地域子育て支援センター

- (1) 実施内容 ミニ講座、身体測定、誕生会 1回/月  
園庭開放、育児相談
- (2) 利用状況 延べ利用人数 42名(昨年34名)  
相談件数 9件(昨年10件)

## 3 事業所内保育

- (1) 利用規模 定員9名
- (2) 利用状況 月極め利用 1名 一時利用 17名  
延べ年間利用人数 754名(昨年1084名)  
平均 2.4名/日(昨年3.5名/日)

# 7 臼井はくすい保育園

新型コロナ対策については家庭と情報共有しながら、活動内容を工夫して園児の行動範囲を広げた。また、コロナ禍での体力不足があったため、年度後半には体力作りにも力を入れた。園バスの運用も定着し、徒歩では行きにくい公園や畑、はくすい農園などに出かける事ができた。

地域交流としては地区内の高齢者クラブと交流を計画し、実施には至らなかったが今後の地域交流の糸口となった。新たな行事を取り入れ、保護者の理解と協力を得た。

一時預かり保育事業は、2歳児に空きがあったため、後期に継続利用する方があった。

## 1 認可保育所

- (1) 利用規模 認可保育事業 (定員) 50名
- (2) 保育職員会議 全12回
- (3) 利用状況  
認可保育事業 登録児童 52名 延べ年間利用人数 10,580名  
一時預かり保育事業 登録児童 3名 延べ年間利用人数 56名